

平成29年度
刈谷市行政評価委員会
外部評価実施結果報告書

刈谷市行政評価委員会

報 告

刈谷市長 竹中 良則 様

刈谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置付く取組から「刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出」「公共交通ネットワークの充実」を、第7次刈谷市総合計画に位置付く教育に関する施策の内容から「青少年を取り巻く環境の整備」を選定し、外部評価を実施した結果を報告します。

平成29年10月16日

刈谷市行政評価委員会

委 員 長	昇 秀 樹
委員長職務代理	吉 本 理 沙
委 員	佐 野 真 紀
委 員	奥 村 勇 雄
委 員	面 高 俊 文
委 員	山 田 達 也
委 員	野 村 裕 子
委 員	森 雅 博

報 告 書 目 次

1	刈谷市行政評価委員会	1
	(1) 構成	
	(2) 役割	
2	外部評価の実施	2
	(1) 評価項目の選定	
	(2) 評価項目	
	(3) 実施方法	
	(4) 活動の経過	
3	外部評価の結果	5
	(1) 行政評価委員会委員の意見に対する市の考え方	
	ア 第1部「まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を効果検証」	
	取組「刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出」	
	取組「公共交通ネットワークの充実」	5
	イ 第2部「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」	
	施策の内容 「青少年を取り巻く環境の整備」	11
	(2) 委員長による全体総括	16

1 刈谷市行政評価委員会

(1) 構成

刈谷市行政評価委員会は、以下の8名の委員で構成します。

団体名・役職等	氏名
名城大学 教授【委員長】	昇 秀 樹
愛知大学 准教授【委員長職務代理者】	吉 本 理 沙
愛知教育大学 准教授	佐 野 真 紀
元会計検査院審議官	奥 村 勇 雄
認定特定非営利活動法人アジア車いす交流センター(WAFCA) アドバイザー	面 高 俊 文
株式会社豊田自動織機 総務部長	山 田 達 也
株式会社三立 取締役	野 村 裕 子
株式会社キャッチネットワーク 代表取締役	森 雅 博

(2) 役割

市が実施する行政評価に対する外部評価を実施し、その結果を市に報告するとともに、必要に応じて事務事業等の改善に資する提言を行うことです。

2 外部評価の実施

(1) 評価項目の選定

平成29年度は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を効果検証」、「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」の二つのテーマを設け、それぞれから外部評価としてふさわしいものを選定しました。

(2) 評価項目

ア 第1部…まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を効果検証

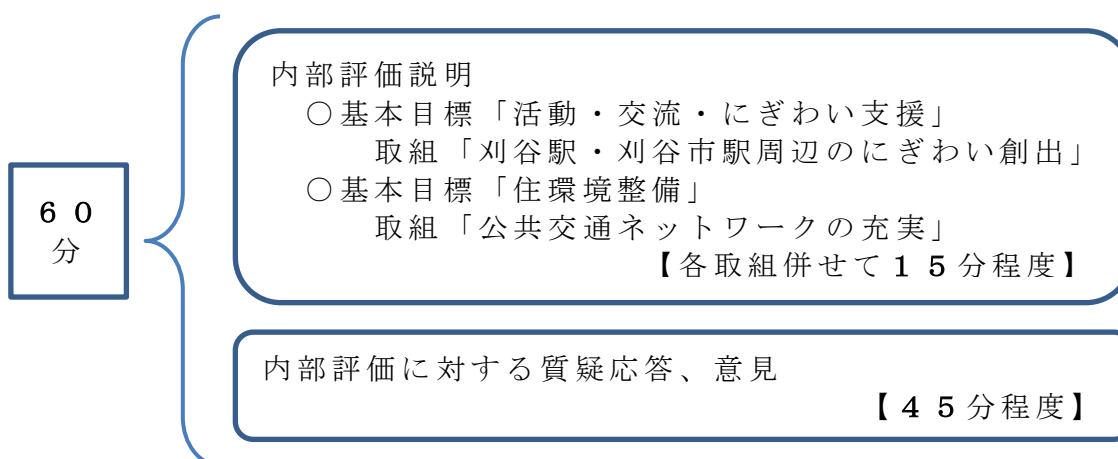
評価対象	担当課	関係課
(基本目標) 活動・交流・にぎわい支援 (方向性) 中心市街地や商店街の活性化・にぎわいの創出を実現する (取組) 刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出	企画政策課	道路建設課 まちづくり推進課 都市交通課 市街地整備課
(基本目標) 住環境整備 (方向性) “ひと”と“環境”にやさしく持続可能な総合交通体系を構築する (取組) 公共交通ネットワークの充実	都市交通課	企画政策課

イ 第2部…教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

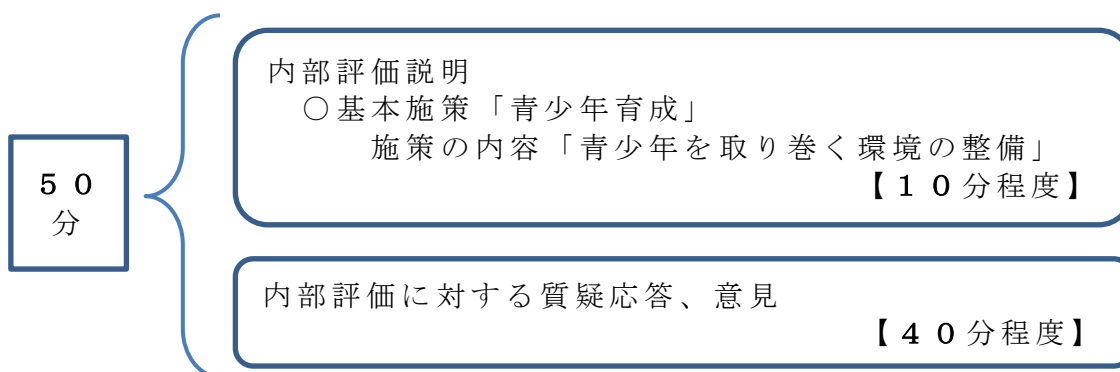
評価対象	担当課	関係課
(基本施策) 青少年育成 (施策の内容) 青少年を取り巻く環境の整備	生涯学習課	

(3) 実施方法

ア 第1部の流れ



イ 第2部の流れ



ウ 外部評価の視点、委員に求める意見・提案

外部評価の視点

「現状の分析と課題」の考え方

- 成果が総合戦略の取組や総合計画の施策の内容の推進に貢献しているか
- 事務事業の評価結果は妥当か

《ポイント》

- ・指標の的確性、指標分析の考え方
- ・分析結果から抽出した課題の妥当性

「今後の方向性」の考え方

- 評価結果、課題への対策となっているか
- 総合戦略の取組や総合計画の施策の内容の推進に効果的か

意見・提案

- 上記の視点での考え方や妥当性等に関する意見
- 内部評価の視点とは別の角度から、分析方法や課題抽出方法を提案
- 総合戦略の取組や総合計画の施策の内容の推進に効果的で、指標や満足度の向上に資する事務事業・施策の提案
 - ⇒既存事業の改善提案
 - ⇒新規事業・施策の提案

(4) 活動の経過

	開催日・時間	場所	会議内容・決定事項
第1回	平成29年 5月24日(水) 9時30分～10 時30分	市役所6階 603会議室	<p>●行政評価の進め方について 外部評価のテーマは、第1部として「まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組等」、第2部として「教育に関する施策の内容」に決定。また、第1部の評価対象は、基本目標「活動・交流・にぎわい支援」に位置付く「刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出」と、基本目標「住環境整備」に位置付く「公共交通ネットワークの充実」に決定。</p> <p>●外部評価対象事業選定について 第2部の評価対象は、総合計画に位置付けられている教育委員会所管の施策のうち、各委員の選定により決定。</p>
第2回	平成29年 7月26日(水) 14時30分～ 17時15分	市役所7階 大会議室A	<p>●外部評価の実施 総合戦略に位置付く取組のうち、「刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出」「公共交通ネットワークの充実」を、総合計画に位置付く教育に関する施策の内容のうち、「青少年を取り巻く環境の整備」を対象に外部評価を実施。</p>

3 外部評価の結果

(1) 行政評価委員会委員の意見に対する市の考え方

ア 第1部「まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組を効果検証」

取組「刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出」

取組「公共交通ネットワークの充実」

【意見】

重要業績評価指標（K P I）は、主観的な市民意識とそれを裏付けできる客観的な数値の両方あるのが望ましい。例えば、交通の評価シートで「日常の移動手段として、自転車や公共交通機関の利用を心がけている市民の割合」と「J R逢妻駅1日平均利用者数」とあるがこの形が望ましい。

【市の考え方】

ご指摘のとおり、誰から見てもわかりやすいよう、主観、客観の両方面から施策の推進状況が把握できる指標の設定を検討していきます。

【意見】

最終目的は、安心安全な定住環境を整備していくことであり、内容によっては、具体的な数値のK P Iの設定により、その数値の達成が目的になってしまうことがあるので注意してもらいたい。なお、この総合戦略に設定しているK P Iは、目標を達成することが目標になるようなものはなく、安心している。

【市の考え方】

総合戦略策定においては、ご指摘の内容とならないような指標の設定に努めました。今後も、目指すべきまちの状態や市民の暮らしをしっかりと意識して施策に取り組み、目指す姿に近づけていくのに効果的な手法を調査、研究していきます。

【意見】

今日の資料だけでは、事業費の妥当性が見えず、効率的な金額かがわからない。もし合理化できるところがあるなら反映していただきたい。

今の方法がベストとは限らないので、より低いコストで政策目標が達成できる他の方法を常にチェックして、より良い効果を発揮できる施策を選んでいただきたい。

【市の考え方】

構想、計画の策定など事業によっては、効率性を測りにくいものもありますが、できる限り数値指標化し、わかりやすい評価に努めていきます。なお、一部事業においては、あらかじめ期待される事業効果など、妥当性を検証したうえで、事業着手をしています。

また、毎年、事務事業評価を実施しており、コストの節減はできるか、市が主体となって実施し続けるべきか、市民サービス向上につながっているかなどをチェックしたうえで、翌年度の事業計画を立てています。

今後も市民サービスの向上を第一に、効率的で効果的な行政運営を推進していきます。

基本目標	3	活動・交流・にぎわい支援 ～安心・快適に住み続けられ、多くの人が訪れるまち（地域）をつくる～
------	---	---

●基本目標に対する重要業績評価指標(KPI)

現状分析	名称	単位	実績値			目標値	
			26年	27年	28年	31年	
◎	成果	刈谷駅周辺が活気や魅力があると思う市民の割合	%	55.5	—	62.6	65 (H32)

方向性	2	中心市街地や商店街の活性化・にぎわいの創出を実現する	担当課	企画政策課
取組	①	刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出	関係課	道路建設課、まちづくり推進課 都市交通課、市街地整備課

●取組に対する重要業績評価指標(KPI)

現状分析	名称	単位	実績値			目標値	
			26年	27年	28年	31年	
◎	活動	市街地再開発事業等による土地の高度・有効利用面積	ha	1.1	1.1	1.8	2.1
◎	活動	民間活力の活用による整備地区数	地区	5	5	6	7
○	活動	市街地整備に関するワークショップ等実施数	か所	5	5	5	5

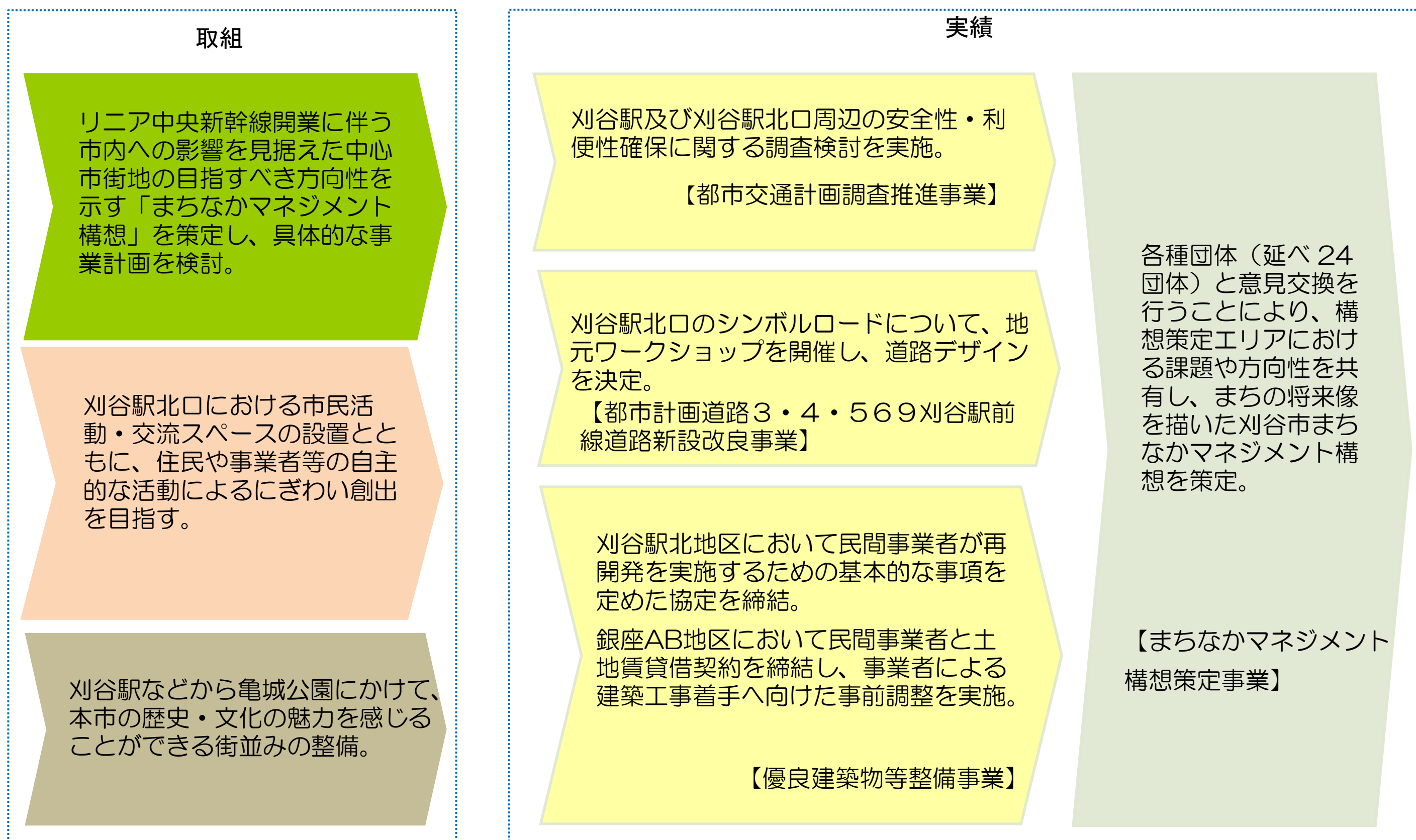
【注】 ◎…上昇傾向、○…横ばい、△…下降傾向

●他市町村との比較検証

比較項目	優良再開発型優良建築物等整備事業の実績地区数（実績総数）						単位	地区
刈谷市	名古屋市	豊橋市	岡崎市	豊田市	東海市	北名古屋市		
5	30	9	2	1	1	2		
備考	県HPより							

比較項目	中心市街地活性化事業を推進する団体に対する支援数						単位	団体
刈谷市	碧南市	安城市	西尾市	知立市	高浜市	—		
3	—	5	—	—	—	—		
備考								

実績



成果・現状分析と課題

成果・現状分析

- ◆地域住民、地元企業、商店街組合をはじめとする各種関係団体等と意見交換を行い、対象エリアが抱える課題やまちづくりの方向性を共有しながらまちなかマネジメント構想を策定し、今後の議論の叩き台を共有することができた。
- ◆刈谷駅南口において、再開発事業等により一定のにぎわいの創出がされ始め、他地区においてもまちづくりの機運が高まってきている。
- ◆市街地整備に関するワークショップが実施され、地域住民主導によるまちづくりが行われている。

課題の整理

- 刈谷駅は通勤・通学時に多くの駅利用者による交通需要に対応するため、安全で円滑な移動環境の確保とともに、本市の玄関口としてのポテンシャルを活かしたまちづくりが必要である。
- 将来的には自立性のある地域住民主導のまちづくりに発展していくことが重要であり、地域住民、地元企業、商店街組合、行政など各々の役割を明確にしたうえで協働し、地域づくりのリーダーとなる人材の育成や積極的な仕掛けが必要である。

今後の方向性

- ◆現在推進している事業の合意形成を進めるとともに、早期実現に取り組んでいく。
- ◆まちなかマネジメント構想において示した想定される取組みの実現に向けて「中心市街地まちづくり基本計画」を策定し、基本的な整備方針を示していく。
- ◆自立性のある地域住民主導のまちづくりの実現に向けて、地域住民や行政などが協働し、地域づくりのリーダーとなる人材の育成や積極的な仕掛けに取り組んでいく。

刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出

構成する主な事務事業

取組①		刈谷駅・刈谷市駅周辺のにぎわい創出		事業費(単位:千円)			事務事業評価(28年度決算)					予算対応の考え方	担当課
事業No	事務事業名	27年度	28年度	29年度	必要性	効率性	妥当性	貢献度	今後の方向性				
1	まちなかマネジメント構想策定事業	予算	—	6,000	—	高い	普通	高い	高い	完了	—	企画政策課	
		決算	—	5,033	—								
2	都市交通計画調査推進事業	予算	140,780	174,046	75,308	高い	普通	高い	高い	現状維持	Ⅵ	都市交通課	
		決算	91,259	149,475	—								
3	都市計画道路3・4・5・6・9刈谷駅前線道路新設改良事業	予算	14,100	36,000	82,813	高い	普通	高い	高い	現状維持	Ⅲ	道路建設課	
		決算	4,698	84,835	—								
4	銀座AB地区整備事業	予算	65,710	147,468	134,395	高い	普通	高い	高い	現状維持	Ⅲ	市街地整備課	
		決算	44,684	147,380	—								
備考													

凡例		予算対応の考え方			
		無	縮小	維持	拡充
方 今 後 性 の	拡充		V	II	I
	現状維持		VI	III	
	改善・効率化		VII	IV	
	縮小		VIII		
	終期設定		IX		
	休止・廃止	X			

基本目標	4	住環境整備 ～安心・安全な定住環境を整備する～
------	---	----------------------------

●基本目標に対する重要業績評価指標(KPI)

現状分析	名称	単位	実績値			目標値
			26年	27年	28年	31年
◎	成果 車や自転車などで移動しやすい道路と思う市民の割合	%	65.4	—	67.4	66 (H32)

方向性	3	“ひと”と“環境”にやさしく持続可能な総合交通体系を構築する	担当課	都市交通課
取組	②	公共交通ネットワークの充実	関係課	企画政策課

●取組に対する重要業績評価指標(KPI)

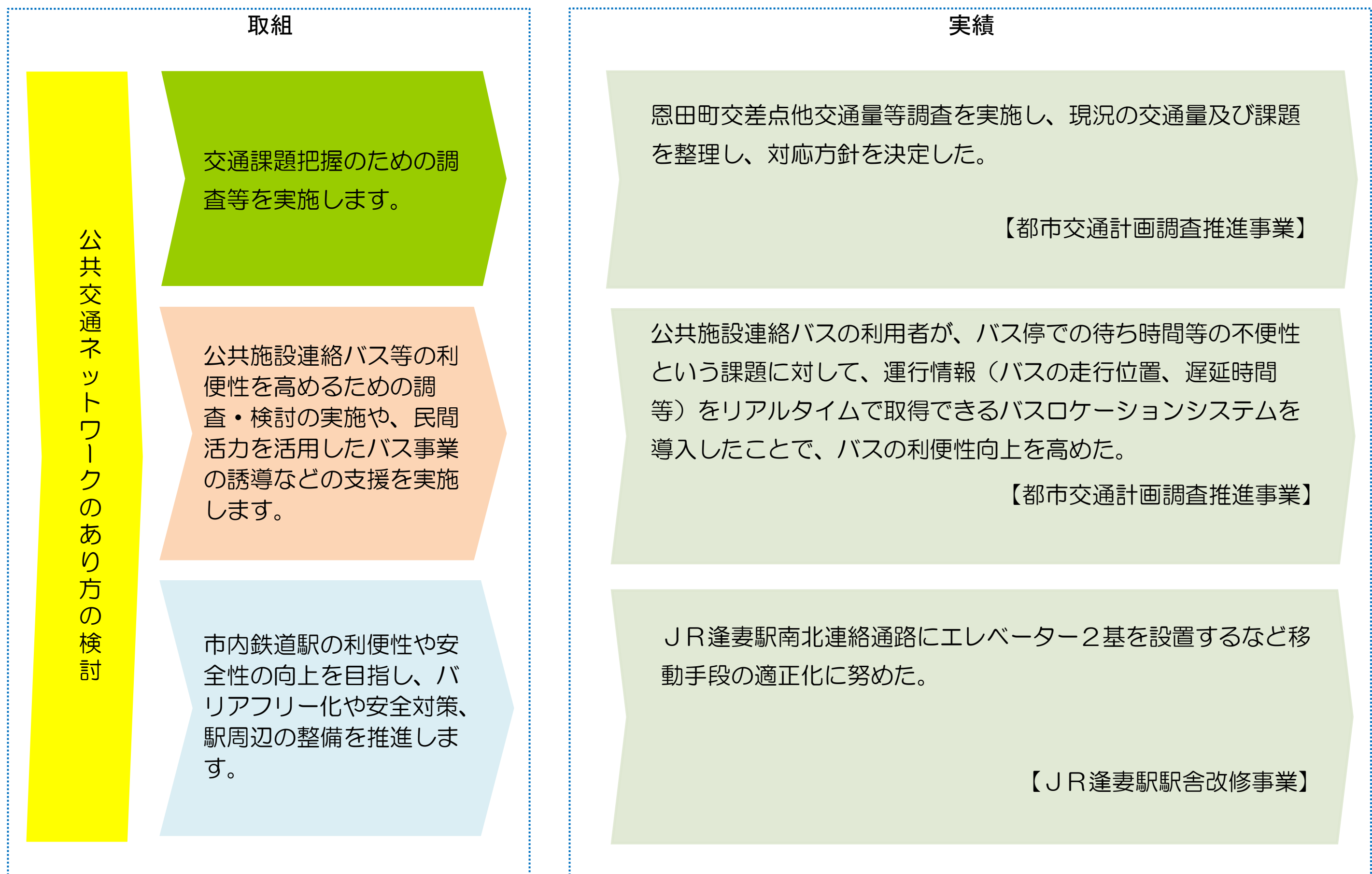
現状分析	名称	単位	実績値			目標値
			26年	27年	28年	31年
〔1〕 ◎	成果 公共施設連絡バス利用者数	人	675,988	694,319	700,656	721,000
〔2〕 △	成果 地方バス路線利用者数	人	50,581	51,240	47,789	49,300
〔3〕 ○	成果 JR逢妻駅1日平均利用者数	人	4,224	4,298	4,480	4,850
〔4〕 ◎	成果 日常の移動手段として、自転車や公共交通機関の利用を心がけている市民の割合	%	35.4	—	37.5	45.0

【注】 ◎…上昇傾向、○…横ばい、△…下降傾向

●他市町村との比較検証

比較項目	近隣市のコミュニティバス状況(路線数/利用料)					単位	路線数/円
刈谷市	碧南市	安城市	知立市	高浜市	西尾市		—
6路線/無料	2路線/無料	11路線/100円	5路線/100円	5路線/100円	3路線/100円		
備考	愛知県内の市町村における自主運行バス等の運行状況について 平成28年5月 愛知県振興部交通対策課						

実績



成果・現状分析と課題

成果・現状分析

- ◆公共施設連絡バスについて、バスロケーションシステムを導入し、利便性を高めたこと等により順調に利用者数を伸ばしてきている。
 - ・パソコン・携帯によるシステムアクセス数：約26万件（平成29年4月～6月実績）
- ◆JR逢妻駅周辺のバリアフリー化が図られ、利用者の利便性、安全性が向上した。
 - ・市内全駅のバリアフリー化が完了

課題の整理

- ◆移動に関する所要時間の短縮、鉄道との連携など公共交通ネットワーク構築に向けて、さらなる公共交通の利便性向上が必要。
- ◆複数の交通手段が接続し、乗り継ぎが行われる拠点において、アクセスの充実や利用環境の向上といった、乗り継ぎがしやすい交通結節点の形成が必要。

今後の方向性

- ◆公共施設連絡バス、定住自立圏による他市からの乗り入れバス、鉄道やその他の公共交通機関の有機的な連携を図り、鉄道駅やバス停等の交通結節点、拠点施設を結び、さらなる利便性が高く、持続可能な公共交通ネットワークを構築する。
 - 市民の移動手段として、公共施設連絡バスの利便性を高める
 - 運行ダイヤ等の課題に対処するため、調査研究
 - バスロケーションのモニター増設、さらなる活用方法の検討
 - 民間活力を活用したバス事業の誘導などを支援
 - バスラッピングを始めとする広告収入の確保
 - 民間が運行する補助路線の広域路線化に向けた調査研究
 - 官民一体となった公共交通ネットワークのあり方の検討

公共交通
ネットワークの充実

構成する主な事務事業

取組②		公共交通ネットワークの充実		事業費（単位：千円）			事務事業評価（28年度決算）					予算 対応の 考え方	担当課
事業 No	事務事業名	27年度	28年度	29年度	必要性	効率性	妥当性	貢献度	今後の 方向性				
1	公共施設連絡バス運行管理 事業	予算	220,861	234,413	257,665	高い	普通	高い	普通	改善・効率化	IV	都市交通課	
		決算	219,763	233,693	—								
2	JR逢妻駅駅舎改修事業	予算	74,040	185,620	42,552	高い	普通	高い	高い	終期設定	IX	都市交通課	
		決算	56,884	144,410	—								
3	都市交通計画調査推進事業	予算	140,780	174,046	75,308	高い	普通	高い	高い	現状維持	VI	都市交通課	
		決算	91,259	149,475	—								
4	地方路線バス維持費補助事業	予算	17,000	17,000	17,000	普通	普通	普通	高い	現状維持	III	都市交通課	
		決算	16,397	16,378	—								
備考													

凡例		予算対応の考え方			
		無	縮小	維持	拡充
方今 向後 性の	拡充		V	II	I
	現状維持		VI	III	
	改善・効率化		VII	IV	
	縮小		VIII		
	終期設定		IX		
	休止・廃止	X			

イ 第2部「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」

施策の内容 「青少年を取り巻く環境の整備」

【意見】

現状分析と課題に記載していることが、言葉を換えてほぼ同じ内容になっている。他にも具体的に書かれていない部分が多く、多少言葉が足りないように思うので、明確に示すとわかりやすくなる。

【市の考え方】

特に「課題の整理」については、具体的な取り組みも交えて記載するなど、誰から見てもわかりやすい記述になるよう改めます。

【意見】

子ども会やPTAの加入の問題など、当たり前であったことが当たり前でなくなってきたことについても議論していくべきである。

【市の考え方】

ご意見のとおり、現代社会においては親世代の価値観の多様性に起因する各種の問題が顕在化しており、今後、ますます地域の力と学校・家庭との連携が求められる時代になることが想定されます。子ども達世代については、自主性、社会性、地域への愛着心を育み、地域社会の一員としての責任と役割を果たして欲しいという願いから、様々な青少年事業に取り組んでまいります。

【意見】

ハツラツかりやっ子育成支援事業は大変有効であるが、とにかく目標件数まで引き上げればよいのではなく、中身のある件数を増やすことが重要である。

【市の考え方】

当事業を実施する目的は、子ども達に様々な体験や交流の機会があたえら

れるよう、地域を基盤とした活動を支援し、その活性化を図るものです。また、その活動に、地域に属する団体が多数関わり連携することで、より効果が得られるという考えから、「複数団体による実施」を補助金交付の要件としています。

実施する活動の内容は地域にお任せしておりますが、「中身のある」すなわち「子ども達の自己有用感を高め」、「社会の一員としての自覚をもたらす」などの効果の検証をするためには、成果指標の設定を視野に入れたアンケート調査を活用するなどの検討が必要であると考えます。

【意見】

「ハツラツかりやっ子育成事業対象採択事業数」「補助対象参加者数」が成果指標として挙げられているが、これはアウトプットの指標である。子どもを育む環境づくりの途中経過の指標として把握していくのはよいが、事業実施によって対象である人や地域がどのように変化したかという最終的なアウトカム指標を考えて欲しい。

なお、非行防止活動として、深夜徘徊の補導件数を減らすというのは適切なアウトカム指標である。

【市の考え方】

今後、追加指標の設定を検討するにあたっては、事業を利用された団体や参加者へのアンケート調査結果を活用するなど、より適切に成果を測ることができるよう、調査研究してまいります。

刈谷市施策評価シート(①基本施策の推進状況)

基本施策	22 青少年育成			施策責任者
				教育部長
				とりまとめ課
				生涯学習課
	施策の内容(小施策)	担当課	関係課	
221	家庭教育の推進	生涯		
222	青少年を取り巻く環境の整備	生涯		
223	青少年の自立支援と社会参加の促進	生涯		

目標指標達成状況
めざす姿(生活像)が下記のどの目標指標と関連しているか表示しています

めざす姿(生活像)		(1)	(2)	(3)	(4)
まちの状態	社会全体で青少年を愛情と思いやりと責任を持って温かく見守っています。	●	○	○	◎
	青少年の体験活動の場に、地域住民が指導者やボランティアとして参加しています。		○		◎
市民の暮らし	青少年が健やかに成長し、社会との関わりを持ち、自立しています。	●	○	○	◎
	青少年が個性を發揮し、積極的に社会活動に参加しています。			○	◎

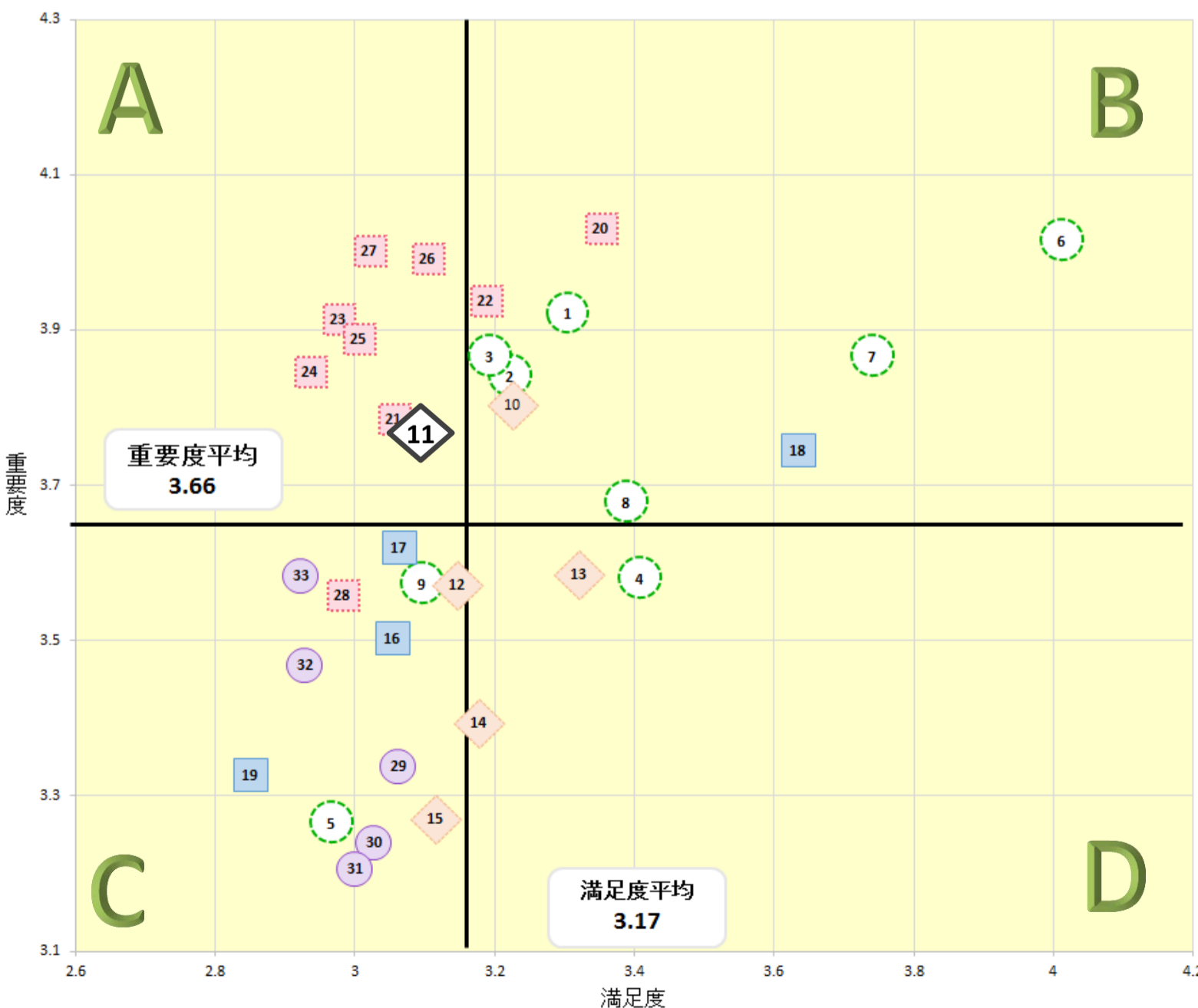
【注】◎…最終目標達成、○…未達成だが上昇傾向、●…未達成で下降傾向

●目標指標

達成状況	名称	単位	実績値			目標値
			26年	27年	28年	32年
〔1〕 ●	家族とよく話をする子どもの割合	%	90.0	—	89.5	92
	関連する施策の内容(小施策)					
〔2〕 ○	放課後などの交流拠点(居場所)数	か所	14	17	18	19
	関連する施策の内容(小施策)					
〔3〕 ○	地域の祭りや行事などに参加することが楽しいと思う子どもの割合	%	83.7	—	84.9	87
	関連する施策の内容(小施策)					
〔4〕 ◎	青少年が参加する体験・交流活動参加延べ人数	人	20,053	20,941	25,371	20,000
	関連する施策の内容(小施策)					

【注】◎…最終目標達成、○…未達成だが上昇傾向、●…未達成で下降傾向

●市政に対する市民の評価



重要度・満足度の評価項目			
11 青少年の健全育成			
	区分	26年	28年
重要度	ポイント	3.84	3.76
	平均	3.73	3.66
	順位	13 / 33	15 / 33
満足度	ポイント	3.12	3.11
	平均	3.17	3.17
	順位	16 / 33	17 / 33

施策の内容(小施策)	222 青少年を取り巻く環境の整備	担当課	生涯学習課
		関係課	

●目標指標

	現状分析	名称	単位	実績値			目標値	
				26年	27年	28年	32年	
[1]	○	成果	ハツラツかりやっ子育成支援事業補助対象採択事業数	件	1	2	3	7
[2]	◎	成果	ハツラツかりやっ子補助対象事業への参加者数	人	358	600	746	1,050
[3]	◎	成果	深夜徘徊の補導件数(刈谷警察署管内)	件	551	635	297	250
[4]	○	成果	青少年作文コンクール及び家族への手紙コンクールの応募作品数	通	961	2,106	1,445	1,500

【注】 ◎…上昇傾向、○…横ばい、△…下降傾向

●他市町村との比較検証

比較項目	青少年活動支援補助制度の予算(上段)採択事業数(下段)					単位	—
刈谷市	碧南市	安城市	西尾市	知立市	—	—	—
10万円×7事業	無	5万円×21地区	無	無			
3事業	—	19事業	—	—			
備考							

実績



成果・現状分析と課題

成果・現状分析

◆地域社会を基盤とした多様な活動の機会を提供し、家庭・学校・地域が一体となってハツラツとした子どもを育む環境づくりを支援することができている。

◆青少年を取り巻く環境が大きく変化する中、学校、家庭、地域が青少年育成について情報交換を行い、共通の認識を得ることができている。

◆小中学校の児童生徒に対する取り組みはできているが、高校生の年代への取り組みが希薄になっている。

課題の整理

○少子高齢化、核家族化、情報化、雇用形態の多様化など、大きく変化する社会情勢に対応していくため、引き続き、青少年育成に関して、学校・家庭・地域が連携を図っていく必要がある。

○高校生の年代を意識した取り組みの拡充を図っていく必要がある。

今後の方向性

◆インターネットの利用に関する問題や子どもの貧困、引きこもりなど若者の自立の遅れ等、青少年に関わる新たな問題に対応するため、家庭・学校・地域が相互に情報共有し、連携の強化を図る。

青少年を取り巻く環境の整備

構成する主な事務事業

222		青少年を取り巻く環境の整備			事業費(単位:千円)					事務事業評価(28年度決算)		予算対応の考え方	担当課
事業No	事務事業名	27年度	28年度	29年度	必要性	効率性	妥当性	貢献度	今後の方向性				
1	ハツラツかりやっ子育成支援事業	予算	700	700	700	高い	普通	普通	普通	改善・効率化	IV	生涯学習課	
		決算	198	297	—								
2	青少年健全育成事業	予算	2,486	2,498	2,517	高い	高い	高い	普通	現状維持	III	生涯学習課	
		決算	2,289	2,239	—								
3	家庭教育啓発指導事業	予算	441	441	435	高い	高い	普通	普通	現状維持	III	生涯学習課	
		決算	384	339	—								
備考													

凡例		予算対応の考え方			
		無	縮小	維持	拡充
方今後性の	拡充		V	II	I
	現状維持		VI	III	
	改善・効率化		VII	IV	
	縮小		VIII		
	終期設定		IX		
	休止・廃止	X			

(2) 委員長による全体総括

- 常に最終成果（アウトカム）を意識した行政運営を心がけていただきたい。例えば、交通事故死者数を減らすために、交通違反取締り件数（アウトプット）を増やす目標を立てる場合があるが、事故が起こりにくい道路で速度違反取締りをして件数を増やしても、事故死者数が減らなければ意味がない。

- 2025年に団塊の世代が75歳を超えて後期高齢者となり、超高齢社会になる。これからは、“義務を果たさず、権利だけを主張する人”が増えている中、これを放置していると、日本の社会は大変なことになってしまう。これまで当たり前に来てきたことも教えていかなければならない。

- 中学校やPTAが連携して実施した刈谷市の「夜9時以降のスマホ使用制限のお願い」は先進市として紹介され、他の自治体にも広がっている。このような先進市として取組が増えていくことが望まれる。また、成果（アウトカム）指標についても指摘をしたが、行政評価を始めた頃に比べればかなり改善されてきていると思うので、引き続きこの方向で頑張ってもらいたい。